

## 学び多き夏でした

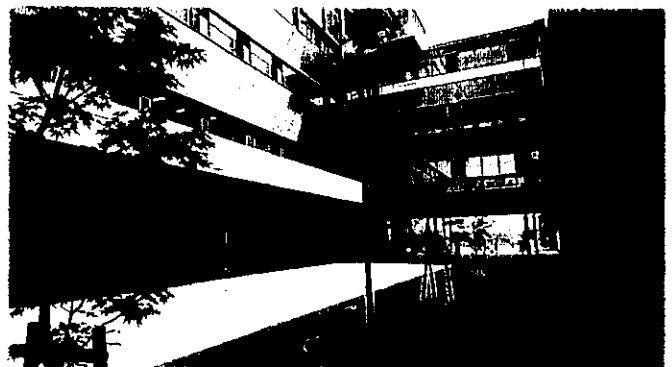
仲嶺 真弓

うだるような暑い8月でした。最終週にはようやく赤とんぼが飛び交うようになりましたが、9月になっても残暑厳しい日々が続きます。もうしばらくは熱中症に要注意です。毎年夏は毎日給食室職員の熱中症を危惧するのですが、この夏はそれだけにとどまらず、子どもたちの園内での水遊びですら、外気が熱すぎて子どもたちに危険がないか温度と湿度と日差しの激しさを要チェックの毎日でした。5歳児の小学校プール体験も以前は徒歩で行っていたのですが、今年は、行き帰り共に公共交通機関の利用を余儀なくされました。つばさが丘は交通の便が悪く、ちょうどいい時間に利用できるバスもなく、行きはタクシー利用となりました。タクシーの手配も台数が多ければ予約もできない状況で主任が四苦八苦していたのですが、そういうことなら東小プールに現地集合できるよと言ってくれた保護者が半数近くいて、タクシー手配も2台ですみ、子どもたちもプール体験をすることができました。タクシーを手配できない時点で、社会的にも熱中症注意喚起のニュースを毎日耳にする中、子どもたちの命を懸けてまでプール体験は必要なことなのか…そうではないよな…と諦めかけたところに、「保護者にもできることがあるから頼ってよ」と声を上げてくれたくれたことに“共同”の風を感じ、嬉しく思いました。ここは「つばさ共同保育園」。認可後も園名に“共同”を残した思いに立ち返らせてもらえた瞬間でした。現地集合してくれた方、タクシーに簡単自動配車アプリがあることを教えてくれた方、何かできることがあれば協力するよと声をかけてくれた方ありがとうございました。

さて、来年度はどんな気象状況になるのでしょうか？ 今年は台風で夏祭りの舞台も中止になり、プール体験は行かせてやりたいという保護者の思いもあると理解して、保護者の協力もあり行けた東小プールでしたが、実は送り出した後も、プールで倒れる子どもや職員はいないだろうか…バス停までふらつくことなく歩けたか…などなど帰園した子どもたちの顔を見るまで心配で気が気でありませんでした。東小プールはそこまでして子ども達に体験させてやりたいことなのかは考える必要があると思っています。

8/5（日）には全国保育園合同研究集会（通称“合研”）に参加しました。全国様々な場所で年に1回3日間通して開催される研修会で、今年は第50回を迎え大阪で開催されました。毎年全都道府県から実践報告の提案があり、38項目の分科会に分かれて全国各地からいろんな立場の人（保育・教育の職場に従事する者・保護者・学生・研究者など…）が集い、子育てや保育をゆたかなものにするための話や保育条件の改善、実現にむけての話など各テーマに沿った実践報告を通して議論し、今何が大切なのか、必要なことは何かなどを参加者それぞれの気付きがあり、明日の活力に変えることができる研修会です。私が参加した分科会は、午前中は「子どもの発達と給食」午後は「よりよい保育と園長の役割」でした。午前は、他施設の心弾むような給食室の実践報告をききながら、アトム共同福祉会の給食室にプラスできるものはないか探求しました。午後からは全国各地の園長と情報交換。保育の資質向上、職員関係づくり、保護者の声をどう拾うか、緊急時の避難対応について、などなど考えさせられることは盛り沢山。そしてどの園長も山のように覆いかぶさってくる事務仕事については悲鳴をあげていました。自分の不器用さだけが原因ではない現状がどの保育園にもあるのだということを感じ、できない自分を責めることはやめて改善点を探ることだけに専念しようと思えました。

この合研研修会ではアトム共同福祉会からも多くの実践報告を提案してきました。最近では、昨年は志賀と大野（現在はアトム勤務職員）が「よりよい保育と主任の役割」という分科会で実践報告をし、今年はアトム職員の上野と上原が「働くことと子育て」という分科会で実践報告をしました。職員にとっては大勢の前で実践報告をすることはめったにない経験で、レポートを書く段階から頭を抱え込んでいます。けれど、もがきながらまとめあげた実践を発表することで、苦しんだ分以上に自分の力に変えられています。日々の業務にはない貴重な体験ができるのもこの研修の魅力です。来年は8/3～5 愛知で開催予定です。興味のある方、ぜひ一緒に参加してみませんか。



合研会場のひとつ茨木市の立命館大学